

東郷町グリーンベルトを考える会

10年のあゆみ



平成 23 年 3 月

東郷町グリーンベルトを考える会
東郷町都市計画課

目 次

| | | |
|-----|----------------------------|----|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 東郷町グリーンベルトを考える会の活動記録 | 2 |
| 2.1 | 東郷町グリーンベルト構想のはじまり..... | 2 |
| 2.2 | 東郷町グリーンベルトを考える会活動の流れ..... | 2 |
| 3 | 個別事案 | 8 |
| 3.1 | 犬のしつけ広場 | 8 |
| 3.2 | 自然観察会 | 13 |
| 3.3 | 前川散策道 | 17 |
| 3.4 | 諸輪区との意見交換会 | 19 |
| 3.5 | 境川・前川河川管理者との意見交換会..... | 21 |
| 3.6 | ビオトープ公園構想 | 23 |
| 3.7 | 愛知池周辺整備計画～前川を蘇らせる～..... | 24 |
| 3.8 | 前川の自然環境保全(水質改善)について..... | 26 |
| 4 | 東郷町グリーンベルトを考える会に参加して | 29 |
| 5 | 東郷町グリーンベルトを考える会名簿 | 34 |
| 6 | おわりに | 35 |
| | 巻末資料..... | 36 |
| | 資料1. 規約..... | 36 |
| | 資料2. グリーンベルト通信..... | 40 |
| | 資料3. 前川通信..... | 68 |
| | 資料4. 活動写真等..... | 78 |
| | 資料5. 自然観察会記録..... | 91 |

1 はじめに

東郷町グリーンベルトを考える会初代代表小林さん、二代代表加藤さんの後、3代目の代表として島川が務めさせて頂きました。

10年間の活動で私達が残せたこと、町に貢献できたことは何か？

メンバーで相談、整理し、町民の皆さんにお伝えできればとの思いから今回の総括資料をまとめさせて頂きました。是非ご拝読願います。

東郷町グリーンベルトを考える会代表 島川 義秋

2 東郷町グリーンベルトを考える会の活動記録

2.1 東郷町グリーンベルト構想のはじまり

東郷町町づくりの指針である「第4次東郷町総合計画(2001～2010)」では、本町のシンボルである愛知池と前川、境川、周辺農地を含めた一帯を東郷町グリーンベルトと位置付け、遊歩道やお花畑の整備を進めるなど、町内にある河川やため池の自然資源を活用した水と緑のネットワーク構想を推進し、自然との共生をめざす「緑、水、鳥そして人が集う」空間の整備を進める。また、自然の中で楽しめるレクリエーション施設の整備や、自然資源を活かしたスポーツ、写生大会などのイベント事業を開催し自然と親しむ環境づくりを進める。（「第4次東郷町総合計画」より）

2.2 東郷町グリーンベルトを考える会活動の流れ

第1段階：平成13年度

東郷町グリーンベルト構想の立案・策定。定例会9回開催。（会員17名）

第2段階：平成14年度

東郷町グリーンベルト構想の実現に向けて「境川緑地公園周辺」を整備対象として検討する。

定例会11回のほか、視察研修会、グランドワーク、文化産業まつりへの出展、自然体験型イベントなど18回開催。（会員19名）

第3段階：平成15年度から22年度

東郷町グリーンベルトを考える会(以下、GBと言う)の活動は、GBメンバー主導で町との協働による活動を行った。（第1回GB例会の開催H15.4.8）

2.2.1 平成13年度東郷町グリーンベルト構想の立案・策定

平成13年度は、町民参加型での構想づくりを目指し、一般公募で集まった17名による「愛知池～境川グリーンベルトを考える会」を立ち上げ、グリーンベルトの目指すべき基本コンセプトから具体的アイデア等を検討し、「グリーンベルト構想」を策定した。

1) グリーンベルト構想の概要

1-1) 将来像

緑・水・鳥そして人の集うところ

1-2) 基本コンセプト

- ①生きものとのふれあい
- ②生命みなぎるすばらしき流れ
- ③話題性の発信

1-3) 7つの基本方針

- ①グリーンベルトの源となる水源(水量)の確保
- ②魚がすむ多自然型川辺づくり
- ③今ある自然環境の保全
- ④水と緑のネットワークづくり
- ⑤誰もが気軽に訪れて快適に利用できる環境づくり
- ⑥水と緑と生物にふれあえる拠点づくり
- ⑦町民参加によるプランから維持管理

1-4) モデル計画

- ①多自然型川辺づくり計画(前川・境川周辺)
- ②愛知池周辺整備計画
- ③境川緑地周辺整備計画
- ④交通児童遊園周辺整備計画

2.2.2 平成14年度東郷町グリーンベルト構想の実現に向けて

1) グリーンベルトフォーラム(H14.4.6)

石川町長、水野助役、石川収入役、近藤建設部長に、平成13年度に取りまとめたグリーンベルト構想を発表し、今後の実施に向けての意見交換を行った。

“意見交換会”

町長：グリーンベルト構想の提案は、ただ提言だけで終わってはいけません。これから言いながら、やりながらの協働の世界だと思います。今後はどうやったら実現化が可能なのかを一緒に検討していきたい。

但し、境川、前川は県の管理河川であり、また、愛知池は水資源公団の管理で、そ

の東側の森は民有地です。そのため絵を描く事はできるが、実現化は簡単にはできません。是非みんなで頑張っていきましょう。

建設部長：グリーンベルト構想実現化のために必要な用地は、町で取得する必要があると思います。

2) コスモス畑の種蒔き(水野委員の休耕田を利用)(H14. 7. 14)

3) 滋賀県甲良町へ視察研修会(H14. 7. 27)

4) 自然環境に関する勉強会

講師：東郷自然観察会中根光先生(H14. 9. 11)

5) 各グループ別グラウンドワーク(H14. 9. 22)

- ・自然グループ→水生生物調査と水質調査
- ・ネットワークグループ→木製チップを使った散策道整備試験工事
- ・ふれあいグループ→流れ橋、駐車場の整備に向けた現地測量等

6) 環境についての勉強会

講師：地域環境保全委員柘植信寿先生(H14. 10. 8)

7) 文化産業まつりに出展(H14. 11. 10)

コスモス、グリーンベルト現況マップ、水生生物(現物)、水質実験、グリーンベルト活動概要及び活動写真、グリーンベルト活動ビデオ

8) 愛知県河川担当者とグリーンベルトの保全・活用に関して意見交換会(H14. 11. 13)

講師：愛知県河川課 近藤朗氏、尾張建設事務所 田宮睦雄氏

9) 廃材を利用した流れ橋完成(H15. 2. 2)

10) 多自然型川づくりと犬のしつけ広場づくりに向けた現地調査とイベントの際の植樹場所の確認(H15. 2. 9)

11) グリーンベルトを考える会の来年度以降の活動に向けて(H15. 3. 7)

来年度は、考える会メンバー自身が会の進行等の中心的な役割を担い、東郷町が事務局として連絡調整を行う体制を築きたい。

12) 自然体験型イベント(H14. 3. 23)

子ども達を中心に多勢の方が参加、アンケート結果では大変良好との評価を得た。

- ・自然観察会
- ・犬のしつけ教室

- ・記念植樹(ハナノキ2本、クスノキ、ケヤキ、ニセアカシヤ各1本)

2.2.3 平成15年度から22年度 東郷町グリーンベルト考える会の活動

東郷町グリーンベルトを考える会の活動の概要を次に示します。

1) 例会(運営委員会)

| | | |
|----------------|----|--------------------|
| 平成15年度・・・11回開催 | 代表 | 小林賢朗：会員10名、賛助会員26名 |
| 16年度・・・8回開催 | | 加藤基延：10名、26名 |
| 17年度・・・8回開催 | | 島川義秋：9名、24名 |
| 18年度・・・5回開催 | | 島川義秋：8名、25名 |
| 19年度・・・5回開催 | | 島川義秋：8名、25名 |
| 20年度・・・3回開催 | | 島川義秋：8名、24名 |
| 21年度・・・3回開催 | | 島川義秋：9名、24名 |
| 22年度・・・4回開催 | | 島川義秋：9名、24名 |

各年度の始めに総会を開催する

2) 全体活動

- ① 東郷町グリーンベルト通信の発行：創刊号～8号(1回/年)
- ② 文化産業まつりでのPR：パネル展示など(H15～18年度)
- ③ 尾張建設事務所河川担当者との意見交換会(H15.10.30)
- ④ 愛知・川の会でGBの活動報告(H15.11.8、H17.2.19)
- ⑤ 名大農場横田先生とビオトープ、自然観察会についての意見交換会(H15年度)
- ⑥ (社)愛知中央青年会議所(JC)と情報交換(H17.1.20)
- ⑦ 境川緑地多目的広場の利用について検討(H17年度)
- ⑧ 愛知万博「東郷町の日」パネル展示(H17.9.4)
- ⑨ 諸輪区との意見交換会(H17.7.26～H21.2.16 全8回)
- ⑩ 愛知池浸透水利用のための検討(H17.7.26)
- ⑪ 前川散策道案内板設置(H18.3.25)
- ⑫ 愛知県河川工事事務所河川担当者との意見交換会(H18.8.28)
- ⑬ 愛知池管理者との意見交換会(H19.5.16)
- ⑭ 愛知池下ビオトープ公園構想(案)の策定(H19.7.25)

- ⑮ 愛知池周辺の環境を考える会へのG Bの話題提供(H19. 10. 13)
- ⑯ 前川の自然環境保全に向けて(水質保全)勉強会(H20. 3. 6)
- ⑰ ビオトープ公園現地勉強会：豊田自然観察の森(H20. 11. 1)
- ⑱ 前川クリーンアップ作戦に参加(H21. 11. 22)
- ⑲ 愛知池での植樹祭に参加(H22. 3. 7)
- ⑳ 〃 (H22. 3. 25)

3) グループ活動

3-1) 自然グループ

- ① 自然観察会
- ② ごみ拾い(自然観察会会場周辺)
- ③ ヒメボタルの保全について検討
- ④ 日本河川協会への登録
- ⑤ 彼岸花の球根植え付け：前川観音橋下流左岸堤防法面、右岸堤防法面
- ⑥ 「ヒメボタルサミット in 愛知」への参加
- ⑦ 前川堤防天端草刈り：ヒメボタル観察会のため
(平成 16～19 年度はG Bで、20～21 年度は町で、22 年度はG Bで実施)
- ⑧ 「前川通信」の発行(第 1 号～第 5 号)
- ⑨ 「COP10 開催記念自然観察会」に登録(H22. 5. 22、H22. 7. 24、H22. 9. 25)

3-2) ネットワークグループ

- ① 流れ橋の補強復旧、修復(毎年度数回実施)
- ② 境川橋付近散策道の階段設置
- ③ 前川散策道(境川～愛知池)整備計画作成
- ④ こども自転車教室及びミニサイクリング(境川サイクリングコース)

平成 20 年度 参加者 8 名

21 年度 8 名

22 年度 25 名

- ⑤ 水辺の緑の回廊管理

*前川堤防草刈について(平成 20 年 5 月)

愛知コミュニティリバー事業(河川愛護活動報奨制度)を活用して堤防草刈りの実施を計画し、諸輪区前川散策道整備推進委員会の同意を得て、河川管理者に実施申出書を提出した。その結果は、前川の堤防は法面勾配が急であり、一般人の作業は危険であること理由から不採用となった。

3-3) ふれあいグループ

犬のしつけ広場 開所式(H15.11.6)

- ① 犬のしつけ広場開催
- ② パスポート発行
- ③ 犬のしつけ教室(勉強会)
- ④ 犬のしつけ広場整備：草刈り、流れ橋復旧など
- ⑤ 犬のしつけ広場運営管理会議
- ⑥ 犬のしつけ広場を愛する会発足
- ⑦ イベント：記念講演、アジリティー大会など

3 個別事案

3.1 犬のしつけ広場

10年間に及ぶGBの活動全体を通して、一番に注目すべき点は、「官民協働」という試みであり、地域住民の力を活かす社会の必要性を考える良い機会に恵まれたことである。

GBのメンバーは、グループごとの活動規模に違いこそあれ、活動の仕組みづくりについての考察、住民の意識調査、各種の施策や協働推進のための手法、民間レベルの新たな価値創造の実践などを地道に手がけてきた。それによって、各々が手ごたえを感じ、また充実した成果を得ることができた。

GBの目指した活動は、東郷町における1つのコミュニティ形成の模索であり、そこから展開する「新しい公共のかたち」への布石である。本資料では「ふれあいグループ」の10年間の集大成であり、官民協働の成功例といえる「犬のしつけ広場」の活動内容の総括と、第五次に向けたいくつかの提案をあげていく。

3.1.1 10年間のおもな活動記録のまとめ

1) 開設までの準備期間の活動

- ・川べりのスムーズな動線確保のため、広場への誘導路を切断する前川に簡易橋の設置を行う(H15.2.2)。
- ・犬のしつけ広場工事へ向けた現地の土壌および周囲の環境調査(H15.2.9)★
- ・GBイベント行事「犬のしつけ教室」開催・境川テニスコート横芝生広場(H15.3.23)★
- ・勉強会(犬のしつけ広場開設に向けての利用者勉強会・町民会館 視聴覚室(H15.8.3))
- ・犬のしつけ教室オリエンテーション・町民会館(H15.9.8)
- ・境川クリーンアップ作戦 広場予定地周辺の清掃(H15.11.2)★
- ・犬のしつけ広場オープン・開所式★

★印は東郷町都市計画課が参加。

2) 広場を安全に使うための利用者へ向けた啓発イベント（勉強会・セミナー・競技会など）

平成 15 年 11/27、12/7

平成 16 年 4/12、5/31、6/14

平成 17 年 5/13、6/30、7/11、8/29、9/14

平成 18 年 4/2

平成 19 年 8/21、11/13

平成 20 年 11/24

平成 21 年 5/16、7/4、11/29

平成 22 年 12/4

計 18 回

3) 広場のメンテナンス作業（草刈り&砂入れ&フェンス修理&流れ橋復旧など）

平成 15 年 8 回

平成 16 年 6 回

平成 17 年 13 回

平成 18 年 7 回

平成 19 年 6 回

平成 20 年 7 回

平成 21 年 7 回

平成 22 年 4 回

計 58 回

（以上はすべてボランティアによる作業記録、これに加え、年間 1 回～2 回の役場による除草作業が追加された）

4) 犬のしつけ広場・開催日（利用パスポートの発行も兼ねる）

平成 15 年 35 日間開催 総利用者数 672 名 ※パスポート発行数 131 名

平成 16 年 84 日間開催 総利用者数 943 名 ※パスポート発行数 91 名

平成 17 年 84 日間開催 総利用者数 863 名 ※パスポート発行数 73 名

平成 18 年 48 日間開催 総利用者数 459 名 ※パスポート発行数 68 名

平成 19 年 36 日間開催 総利用者数 399 名 ※パスポート発行数 86 名

平成 20 年 20 日間開催 総利用者数 241 名 ※パスポート発行数 72 名

平成 21 年 18 日間開催 総利用者数 195 名 ※パスポート発行数 63 名

平成 22 年 12 日間開催 総利用者数 183 名 ※パスポート発行数 38 名

犬のしつけ広場を愛する会メンバーの利用 約 16,000 名

犬のしつけ広場・開催日 (H15～22 合計) : 326 日間開催

のべ利用者数 : 約 20,000 名 (犬のしつけ広場を愛する会のメンバー利用含む)

パスポート発行数 : 622 名発行 (H23.3 現在)

5) 追記 特別事項・サポート組織「犬のしつけ広場を愛する会」について

平成 17 年 11 月 6 日、パスポート取得済みの利用者有志による広場の運営をサポートする組織「犬のしつけ広場を愛する会」が発足する。

加入メンバーは、広場の円滑な運営管理のサポート隊として協力することを目的として、広場内の遵守事項の徹底やマナー向上に努め、定期的なグランドメンテナンス作業に積極的に参加する取り決めがある。また、日時の制限なしに自由に広場を利用できる。

この制度が整備された平成 17 年 11 月から今日まで、より多くの利用者が広場に訪れ、1 ヶ月平均 400 頭の登録犬に有効利用されている。

現在のパスポート総数 622 名 (H23.3 現在)

「犬のしつけ広場を愛する会」の加入者 295 名 (H23.3 現在)

3.1.2 犬のしつけ広場

グリーンベルト構想は、町総合計画で愛知池から境川までがグリーンベルトと位置づけられたことに伴い、「環境保全・生き物とのふれあい・話題性の発信」というコンセプトに沿って平成 13 年度に策定された。その活動の 1 つとして境川の中州を利用し、飼い犬の適正飼育指導とマナー向上のため、犬のしつけ広場を開設した。

日本の飼い犬状況に適したオリジナル運営管理方法を用いた 7 年間の無事故の運営管理は、専門家各方面から高い評価を得るとともに、利用者からも大きな好評を得ている。

3.1.3 「犬のしつけ広場」7 年間の試みと成果

- ① 一番の成果としては、GB メンバーと広場利用者の協力体制を整え、住民の自立意識を育てた点をあげたい。運営側からの指導と働きかけによって、約 2 年の準備期間を経て発足したサポート組織「犬のしつけ広場を愛する会」は、簡易的ではあるが毎年交代で代表役員を選出し、広場の行事運営からグランドのメンテ

ナンス、運営資金のカンパ集めまでを担当し、運営スタッフと利用者の間にある「サービスする側とされる側」という無意識の壁を払拭することに役立った。

「犬専用グラウンド」という特殊な設備形態には、ボランティアの中にも専門資格保持者を要し、大勢の社会的使命を持つ健全な町民ボランティア（あるいは民間団体）の助力が不可欠であった。「犬のしつけ広場」の成果は、こうした多方面の援助により成り立ったものである。

② 当初はボランティア側のみで行っていた広場の点検（グラウンド状態や利用者数の記録）を毎週1回、都市計画課へ報告をすることをボランティア側から提案した。点検報告はeメールによって、都市計画だけでなく、運営に係わるボランティア全員に一斉送信され、広場の管理と、「官民協働」の両面で役に立った。

③ その他の試みとして都市計画課以外の他課との提携も積極的に展開し、環境課主催の愛犬教室を「犬のしつけ広場」で開催。犬のしつけ広場運営スタッフであるEastWindが講師をつとめた。

また、環境課管轄の「犬の適正飼育に関する情報ページ」を1年間にわたり執筆担当し、同時に犬のしつけ広場の必要性和役割を紹介した。

その他にはPR活動として 広報、地域情報誌、新聞などへ記事の掲載を依頼。東郷町外からの来場者も受け入れ、近郊市町村への波及効果にも努力した。

3.1.4 今後の課題

1) 行政へ望むこと

現行システムの中では、行政側が考える「官民協働」の相手方はNPOが多く、その大半が行政側からの働きかけによるものである。また、その方法は補助か委託のいずれかであり、形式的な協働に留まっていることが多いように感じられる。GBにおける「犬のしつけ広場」も例外ではなく、運営スタッフは全員がEastWindという民間ボランティア組織に所属しており、都市計画課とEastWindの間で「管理運営の委託」という書面上の約束を交わす形となっている。行政側には時代を鑑みて、現状より更に進んだ「官民協働」のあり方を考え、「民」との対等な付き合い方を意識してもらいたい。しかし、7年間の活動を省みて、「官民協働」を把握しきれていなかった我々に対し、常に役場からの大きな支援があったこと。とりわけ都市計画の長きに渡るGBへの協力と指導には心から感謝したい。

2) これから民間が考えなくてはならないこと

最近までは、公益性に係る事業は行政で担っていくべきという考え方が主流であった。しかし国家の財政運営が行き詰まりを見せる現状、地域の抱える課題に対しては、そこに暮らす「民」が積極的に公共性を持ち、地域社会に協力する必要がある。また、自己利益を最優先する未熟なボランティア組織等の「民」は自らを反省する必要がある。

3) 次年度のふれあいグループの活動

「犬のしつけ広場」は、グリーンベルト構想に沿ったボランティアによる犬の適正飼育を波及させるための「活動の場」であり、町民のためにサービスを提供する永久的な「公共福祉施設」ではない。第4次において、当初の目標が達され、成果が実証された場合には、一旦終結することを前提としている。

第5次へ向けては、「犬のしつけ広場」の活動は発展的解散とし、また新たな局面からGBに貢献していくことを考えていきたい。

3.2 自然観察会

グリーンベルト構想では、前川沿いにビオトープを作ることを考えていた。ビオトープ作りを考えるに際し、町内の自然を知ることが第一と考え、足かけ9年にわたり一般参加も募って自然観察会を行った。

場所は、愛知池周辺、名大農場、境川・前川周辺、傍示本グラウンド～境川又は蟹池の5地域である。5月のヒメボタル、8月の鳴く虫は夜間に、7月の川の生き物観察は前川および境川で行った。

参加者と観察した主な生き物は、木本(44種)、草本(132種)、昆虫(119種)、クモ(20種)、水生生物(12種)、魚類(14種)、両生類(5種)、は虫類(3種)、ほ乳類(5種)、鳥類(68種)であった。

観察会を行ったところでは特に希少な生き物は見ることができなかったが、一般的な生き物が一年を通じたたくさん確認できた。前川では毎5月中旬からヒメボタルが観察されたのは特徴的である。しかし、コナラやアベマキの林があって林縁に様々な植物が生育する場所や抽水植物が生える池沼、冬もぬかるみの残る田んぼなどは少なく、アカトンボやイトトンボなどの仲間が少なかった。また、カエルもほとんどがヌマガエルとアマガエル、ウシガエルで、トノサマガエルもわずかしか見られず、ヒキガエルは観察会を始めた頃に一度だけ卵塊を見たのみである。カメもミシシippアカミミガメがほとんどであった。また、冬鳥がたくさん観察できた蟹池の南東部が開発されてしまい、蟹池にやってくる冬鳥が減ってきていると思われる。

自然環境を林地、草原、湿地に分けると、見かけは同じでもそれぞれの構成する種はわずかな条件の違いで異なることが多い。東郷町内で生物の多様性を維持し増進していくには現状を分析し、今ある林やため池、田んぼなどの土地の管理のあり方を生き物の視点で見直すことが必要である。

観察会の参加者は、5月のヒメボタルの観察会や9月のバッタの運動会への参加が多かった。町内でヒメボタルが見られたことに感激したり、バッタの運動会で親子一緒に虫取りに夢中になったりする姿が印象的であった。

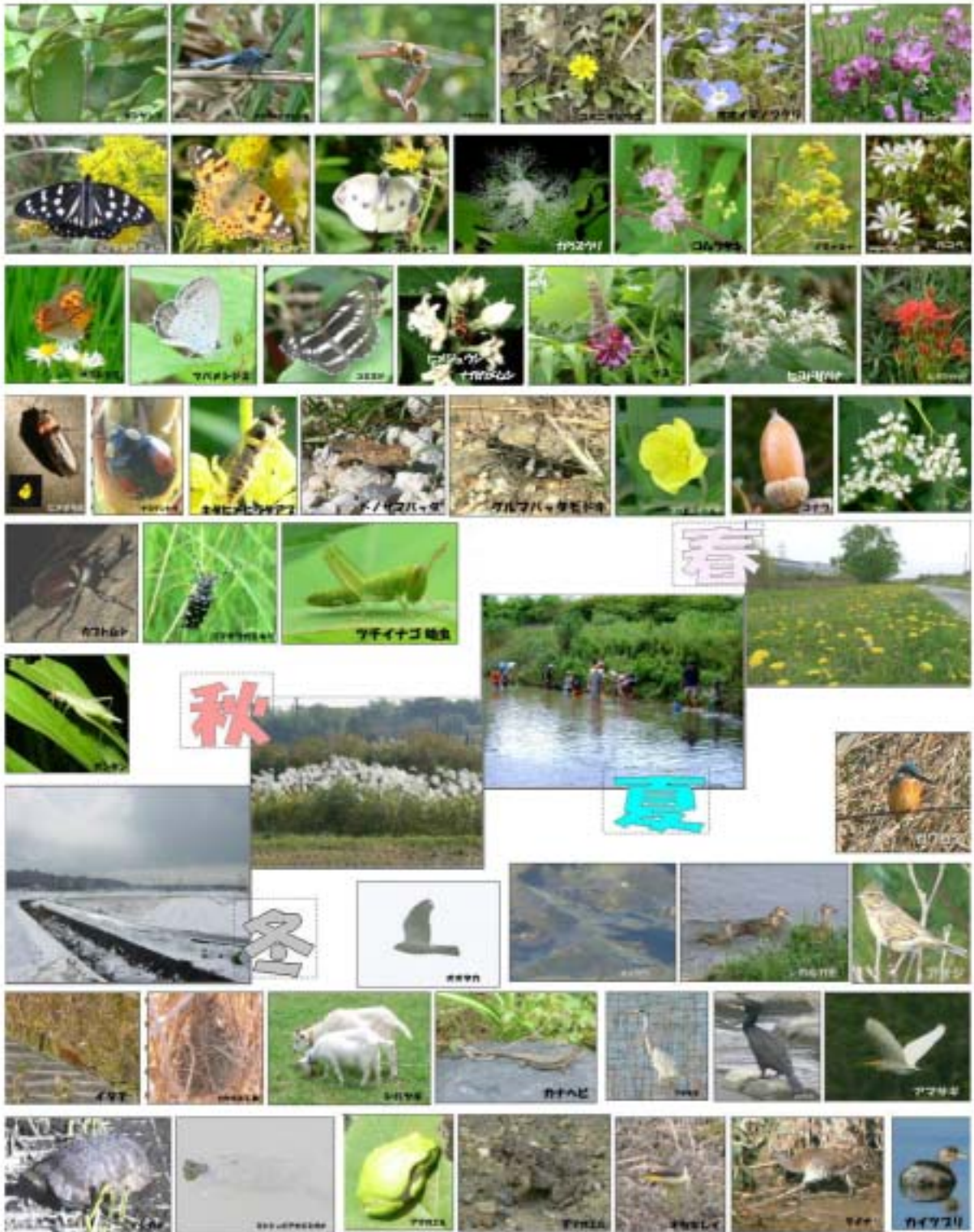
表 2.1 グリーンベルト自然観察会実施記録

| | 実施回数 | 実施日（10月末日現在） | 参加者数 |
|--------|------|--|-------|
| 2002年度 | 1回 | 10/12, 3/23 | 39 |
| 2003年度 | 7回 | 4/27, 5/23, 8/24, 9/28, 12/28, 3/28 | 64 |
| 2004年度 | 6回 | 4/25, 5/21, 8/22, 9/26, 12/26, 3/27 | 101 |
| 2005年度 | 6回 | 4/24, 5/20, 8/26, 9/25, 12/25, 3/26 | 123 |
| 2006年度 | 11回 | 4/22, 5/27, 6/24, 7/22, 8/26, 9/23, 10/28, 11/25, 12/23, 1/27, 2/24 | 208 |
| 2007年度 | 12回 | 4/28, 5/26, 6/23, 7/28, 8/25, 9/22, 10/27, 11/24, 12/22, 1/26, 2/23, 3/22 | 125 |
| 2008年度 | 5回 | 7/26, 10/4, 11/22, 1/24, 3/28 | 79 |
| 2009年度 | 6回 | 5/23, 7/25, 9/26, 11/28, 1/23, 3/27 | 141 |
| 2010年度 | 6回 | 5/22, 7/24, 9/25, 11/27, 1/22, 3/26 | 141 |
| 実施回数 | 60回 | のべ参加者数 | 1,021 |

表 2.2 自然観察会で見た生き物一覧 (50 音順)

| 番号 | 基本(44) | 基本(132) キノコ(2) | 昆虫(119) *その他(4) | ワモ(20) | 水生生物(12) | 魚類(14) | 両生類(5) | は虫類(3) | ほ乳類(6) | 鳥類(68) |
|-----|----------|----------------|-----------------|-----------|----------|---------|-----------|------------|--------|-----------|
| 1 | アオツツラフジ | アカカササ | アオクサカメムシ | アシナガクモの仲間 | アメリカザリガニ | オイカワ | ウシガエル | イシガメ | イタチ | アオサギ |
| 2 | アカマツ | アキエノコログサ | アオシジガメ | イトネグモ | カゲロウの仲間 | カマツカ | トノサマガエル | カナヘビ | シバヤギ | アオジ |
| 3 | アカメガシラ | アキキリンソウ | アオドウガネ | イタチグモ | ガムシ | カワムツSP | スマガエル | ミシシビアカミミガメ | 黒毛和牛 | アマサギ |
| 4 | アベマキ | アキノノグサ | アオハナムグリ | ウスキノモリグモ | スジエビ | カウヨシノボリ | アマガエル | | ネズミの仲間 | イカルチドリ |
| 5 | アラカシ | アケビ | アオバハコロモ | ウロコアシナガメ | トビケラの仲間 | キンブナ | ヒキガエル(死体) | | | イシヤギ |
| 6 | イヌノキ | アミノカネトシカ | アオマツシ | オオシロカネグモ | ヌエビ | コイ | | | | イワナ |
| 7 | イヅナ | アミノカズメノヒエ | アオノグサ | カハキコマチグモ | ハネガムシ | ウツナギ | | | | イワナ |
| 8 | イヌザシショウ | アミノカセンダングサ | アカテハ | クサグモ | ヒメタニシ | ドジョウ | | | | ウソ |
| 9 | ウバハグサ | アメリカワウロ | アキアカネ | コクサグモ | ヒル | ナマズ | | | | エナガ |
| 10 | ウス | アメリカズキンバイ | アジアイトンボ | コグチャオニグモ | マシジミ | ブラックバス | | | | オオタカ |
| 11 | ウラボシグサ | アリアケスミレ | アシゲロツユムシ | コモリグモの仲間 | マルタニシ | ブルーギル | | | | オオバン |
| 12 | エノキ | アレチハナガサ | アシナガヤハヒの仲間 | ササグモ | ミジンコの仲間 | メダカ | | | | オオヨシキリ |
| 13 | カキ | アレチマツヨイグサ | アブラムシ | アゲハチョウ | サツマノシダマシ | モツゴ | | | | オオヨシガメ |
| 14 | カクレミ | イタズカ | アサギ | ジョウゴクモ | | モロコ | | | | オドリ |
| 15 | カマズミ | イタドリ | イスノシアブラムシ | ナガコガネグモ | | | | | | オナガガキ |
| 16 | キリ | イヌガラシ | イタドリハムシ | ネコハグモ | | | | | | カイツブリ |
| 17 | クスノキ | イヌタデ | イトカメムシ | ハナグモ | | | | | | カケス |
| 18 | クスギ | イヌムギ | イラガ | ヤホシヤヒメグモ | | | | | | カシラダカ |
| 19 | クロマツ | イノコナシ | ウスイロササキリ | ヤマシロオニグモ | | | | | | カガク |
| 20 | クワ | ウシノコ | ウシノコ | | | | | | | カガク |
| 21 | クワ | オオノスノグサ | ウツクシジミ | ドヨウオニグモ | | | | | | カガク |
| 22 | シキザクラ | オオシシバリ | エンムサオロギ | | | | | | | カワラヒワ |
| 23 | シヤヤナギ | オオニシキソウ | オオカマキリ | | | | | | | カンムリカイツブリ |
| 24 | シユウガツザクラ | オギ | オオシオカラトンボ | | | | | | | キジ |
| 25 | シラカシ | オナモミ | オニヤンマ | | | | | | | キジバト |
| 26 | シシジ | オニヒラコ | オンパバツタ | | | | | | | キセキレイ |
| 27 | スギ | オシノグサ | カゲロウの仲間 | | | | | | | クナ |
| 28 | スズメ | オシロイ | カササギ | | | | | | | クナ |
| 29 | イモシノ | オラシガミナグサ | カササギ | | | | | | | クナ |
| 30 | ソヨゴ | カガイモ | カササギ | | | | | | | クナ |
| 31 | ツブラジ | カキドオシ | カンタン | | | | | | | クナ |
| 32 | ニセアカシア | カスマグサ | キタテハ | | | | | | | クナ |
| 33 | スルデ | カゼクサ | キチョウ | | | | | | | クナ |
| 34 | ネズ | カタハシ | キンビバ | | | | | | | クナ |
| 35 | ネズミモチ | カメムシ | キンヤンマ | | | | | | | クナ |
| 36 | イモシノ | カモガサ | カゲロウ | | | | | | | クナ |
| 37 | ヒサカキ | カモシグサ | カササギ | | | | | | | クナ |
| 38 | ヒラドツツジ | カラスウリ | ウサビバ | | | | | | | クナ |
| 39 | ミモザ | カラスノエンドウ | ウサビバの仲間 | | | | | | | クナ |
| 40 | ムクノキ | カラスムギ | ウビキリギス | | | | | | | クナ |
| 41 | ムラサキシキブ | カラムシ | クルマバツタ | | | | | | | クナ |
| 42 | モモ | キシキシ | クルマバツタモドキ | | | | | | | クナ |
| 43 | ヤマハギ | キョウリグサ | クロアガハ | | | | | | | クナ |
| 44 | リュウブ | キンノコロ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 45 | | クズ | クワガタ | | | | | | | クナ |
| 46 | | クワツネノボタン | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 47 | | コニシキソウ | クワハムシの仲間 | | | | | | | クナ |
| 48 | | コセンダングサ | ケラ | | | | | | | クナ |
| 49 | | コシキソウ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 50 | | コハコバ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 51 | | コメダリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 52 | | コメダリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 53 | | シマスズメノヒエ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 54 | | ジュズダマ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 55 | | シロツメクサ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 56 | | シロバナタンポポ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 57 | | スイバ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 58 | | スイレン | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 59 | | スカシゴボウ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 60 | | スギ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 61 | | ススキ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 62 | | スズメノエンドウ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 63 | | スズメノカタビラ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 64 | | スズメノテッポウ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 65 | | スズメノヒエ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 66 | | スズメノヤリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 67 | | スズメ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 68 | | セイトカアワダチソウ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 69 | | セイバンモロコシ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 70 | | セイヨウカラシナ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 71 | | セイヨウタンポポ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 72 | | セニソウ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 73 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 74 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 75 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 76 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 77 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 78 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 79 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 80 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 81 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 82 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 83 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 84 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 85 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 86 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 87 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 88 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 89 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 90 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 91 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 92 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 93 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 94 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 95 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 96 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 97 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 98 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 99 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 100 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 101 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 102 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 103 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 104 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 105 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 106 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 107 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 108 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 109 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 110 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 111 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 112 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 113 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 114 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 115 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 116 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 117 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 118 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 119 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 120 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 121 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 122 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 123 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 124 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 125 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 126 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 127 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 128 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 129 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 130 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 131 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 132 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 133 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |
| 134 | | セリ | クワハムシ | | | | | | | クナ |

生きものいっぱい・グリーンベルト



グリーンベルト自然観察会は、毎月第4土曜日に行っています。詳しくは、チラシをご覧ください。 平成18年10月作成

図 2.1 生き物いっぱいグリーンベルト

<平成18年度 商工会に出展したパネル>

3.3 前川散策道

3.3.1 前川散策道（境川～愛知池）整備の課題と今後の活動について

境川～前川、前川から愛知池への散策道は数箇所寸断、不整備のため、町民に活用されていない。そこで、境川から前川、愛知池へ連続する散策道を歩行、自転車走行できる様に以下の橋付近と堤防上の整備を提案する。

1) ①境川橋付近と②境川堤防上（境川と前川合流点まで）

現状：河川敷の遊歩道が橋の下流側手前で終了している。

提案：橋を潜り堤防上に上がり、堤防上の遊歩道を前川合流点まで舗装路を延長する。

2) ③仲田橋付近

現状：堤防より橋が1m弱高くなっており、車の交通量も多く、ガードレールで堤防上の散策道は遮断されており橋を迂回する必要がある。

提案：横断歩道の新設と迂回路を使用するコースを整備する。

3) ④前川橋付近

現状：県道520号は車の交通量が多く、近くの信号機付き交差点まで迂回し道路横断する必要がある。

提案：交通安全上、現状の迂回路の使用を徹底する。

4) ⑤吉田橋、⑥篠木橋

現状：車の交通量が多いが横断歩道の設置もない

提案：横断歩道の新設が必要

5) ⑦前川堤防上（境川と前川合流点から愛知池まで）

現状：夏季は人も歩けなくなるほどの雑草と雑木で覆われる箇所がある。

提案：歩行、自転車走行が可能な1.5～2m幅程度の舗装路を整備する。コースは愛知池下のビオトープ公園（案）を含めて検討する。

上記を第5次東郷町総合計画に提言する。



境川橋付近と 境川堤防上(境川と前川の合流域まで)

仲田橋付近

前川橋付近

吉田橋， 篠木付近

前川堤防上(境川と前川の合流域から愛知池まで)

図 3.1 前川散策道イメージ図

3.4 諸輪区との意見交換会

平成 17 年 7 月 26 日～21 年 2 月 16 日までに全 8 回開催した。

3.4.1 前川散策道

前川堤防の散策道は諸輪区としても賛成である。それには堤防の草刈りが先決で年 3～5 回の実施が必要である。しかし、誰が作業をするのか、地域の人は農作業で多忙である。現在は、河川管理者(県)が年 1 回前川全川で草刈りを実施している。

前川散策道実現に向けて、地元組織として諸輪区前川散策道整備推進委員会が発足する。(H18. 3. 7)

平成 19 年度から東郷農産に委託して実施する予定と話があったが、予算の都合からか立消えとなった。

平成 20 年 5 月 愛知コミュニティリバー事業(河川愛護活動報奨制度)を活用して、堤防の草刈りの実施を計画した。諸輪区前川散策道整備推進委員会の同意を得て、河川管理者(県)に実施申し出書を提出した。しかし、結果は前川の堤防法面が急であり一般人の作業は危険であるとの理由から不採用となった。

[考察]

GB では、吉田橋～前川橋間(約 700m)をヒメボタル観察会のために毎年草刈りを実施している。GB としては前川堤防天端の草刈りはこれが限界で、それ以上の草刈りは別途地元の協力、その他の方策を考えないと現実としては無理であると感じている。

3.4.2 前川散策マップ

前川散策道に関して地元の方に関心をもってもらうことを狙って、前川散策マップおよび案内看板作成の提案が都市計画課からあった(H18. 1. 31)。

平成 18～19 年度活動として、諸輪区内の史跡を入れて散策マップを作成し印刷した。また、案内看板は 2 ヶ所設置して PR に努めた。

3.4.3 愛知池浸透水の活用

諸輪区との意見交換会(H17. 7. 26)で、諸輪区から浸透水を活用してはどうかと提案があった。それ以来毎回のように話題となった。

活用方法については、いろいろの意見があったがビオトープ案で進めることになった。

第6回検討会(H20.1.23)でビオトープ公園構想(案)が了承され、豊田自然の森でビオトープ公園の勉強会を、東郷町、諸輪区前川散策道整備推進委員会、愛知池友の会、GBの参加で実施した。

詳細については、別途ビオトープ公園構想(案)を参照されたい。

3.4.4 その他

①ヒメボタルの保全、②前川の水質改善、③前川の清掃、④前川堤防の植樹などが話題となった。

3.5 境川・前川河川管理者（愛知県）との意見交換会

3.5.1 住民参加型研修会 尾張建設事務所 田宮主査（H14.11.13）

①行政の今後の展開について、②愛知県における多自然型川づくりについて、③境川地域河川環境管理基本計画について などの講演と意見交換会。

3.5.2 尾張建設事務所（前川管理者）との意見交換会 大木主査（H15.10.30）

- ① 前川は、暫定計画(5年確率)の流下能力が確保されており、当面新しい改修計画を実施する予定はない。
- ② 前川の利用のなくなった利水施設(堰など)は、占用者(東郷町)で撤去してもらうことになる。
- ③ 多自然川づくりの考え方により魚の移動を容易にするため、堰などの段差の解消を行い、低水路整備などで縦断的なつながりを工夫することが考えられる。
- ④ 水質の改善については、流域下水道による河川流量の減少は、水質悪化への影響が懸念される。しかし、生活排水、産業排水対策など関係者の連携による総合的な改善が不可欠である。
- ⑤ 堤防の散策路としての利用は、河川管理者として妨げるものではない。ただし、木製チップ舗装などを行う場合は別途協議が必要である。
- ⑥ 現在県で実施している堤防の草刈りは、年1～2回数cm残して刈り取っている。目的は、通水断面の阻害防止や堤防などの河川管理施設の保全のためである。その他地元住民の生活環境対策なども大きな要因である。従って、ヒメボタル保護のための特定の刈り方は困難である。
- ⑦ 堤防への植樹は、「水辺の緑の回廊整備事業」の他には現実的に困難である。従って、野鳥、昆虫、魚などの生息場所確保や河畔林の造成も困難である。
- ⑧ 前川水源流量の確保については、前川の集水域である愛知池は、県の管理が及ぶ施設でない。従って、県は愛知池集水域の流量について放流の要望ができる立場にはない。
- ⑨ GBに期待することは、河川管理、河川の活用にあたって、実践の場における課題などを共有して取り組んで頂きたい。

3.5.3 尾張建設事務所（前川管理者）による前川現地調査 大木主査、林技師
(H16.8.25)

3.5.4 河川工事事務所（境川管理者）との意見交換会 橋本係長他 (H18.8.28)

- ① 境川の東郷町内の河川改修工事は現在のところ予定はない。
- ② 多自然川づくりの取り組みについては、災害復旧工事などのときに対応している。
- ③ 低水護岸の多自然化については、必要に応じて改善に努める。
- ④ 河畔林(樹木)の新規植樹は、河川占用基準の範囲内なら可能である。既存河畔林は樹木による治水上悪影響ある場合は伐採する。
- ⑤ 堤防法面の草刈りについては、河川施設管理が主目的である。地元の要望によって実施時期などは配慮するが、特定の草刈りは困難である。
- ⑥ 境川流域整備計画の一環として地域に「雨水貯留浸透施設」等をお願いしている。河川維持流量の適切な設定については検討中。
- ⑦ 水質の改善については、関連機関との連携強化を図りながら努める。
- ⑧ 前川低水路のゴミについては、尾張建設事務所維持管理課へ相談のこと。
- ⑨ 境川、前川合流点の広い高水敷の活用については、東郷町の町づくり計画、環境施設との連携を図ることは可能である。東郷町の事業予算の担保があれば県は協力する。
- ⑩ 「緑の回廊」についての県の考え方は、現状のままで一切手を加えない方針である。

[考察]

GBが要望している「こどもたちが遊べる川辺づくり」に向けて、河川管理者並びに地域の人に自然観察会などの活動を通して協力が得られるよう働きかけてきた。賛同は得られているが費用の面などから相当な時間と努力が必要である。

多自然川づくりは、河川災害発生時にすばやく河川管理者と協議して進めることが肝要である。

水質改善など環境に配慮のため、河川の平常時の流量増加対策は、河川管理者としての正式な回答は非常に困難である。しかし、地域住民の強い要望があれば河川管理者も動くことも期待できる。

3.6 ビオトープ公園構想

- ① H13. 8. 25 現地探索による現地把握の折、愛知池からの浸透水の活用の意見があった。
- ② 愛知池の浸透水を利用したビオトープ公園づくりについて用地、使用許可など検討する(H15年度)。
- ③ 諸輪区との意見交換会(H17. 7. 26)の時、愛知池からの浸透水活用の意見があり検討の結果、愛知池堤防下の休耕田を利用したビオトープ公園構想が立ち上がった。
- ④ ビオトープ公園構想、他について愛知用水総合管理所と意見交換会(H19. 5. 16)を行い、浸透水の利用、用地の占用、立ち入り測量などの了解を得た。
- ⑤ 浸透水の導水が可能かどうかのレベル測量を実施(H19. 6. 13)し、可能であることを確認した。問題は維持管理。
- ⑥ ビオトープ公園構想(休耕田約 3,000 m²に浸透水をパイプで導水し、浅い池・土水路・冬水田んぼなど自然の植生とドジョウ、メダカ、カエル、トンボなどの昔の田んぼの生きものがすむ場所を作る。田んぼの水族館とも言う。)を策定し、GBの了承を得る。(H19. 7. 25)
- ⑦ 愛知池周辺の環境を考える会(座長、横田元名大農場長)へビオトープ公園について話題提供。(H19. 10. 13)
- ⑧ 諸輪区前川散策道整備推進委員会(諸輪区、愛知池友の会、GB、都市計画課)で報告了承を得る。(H20. 1. 23)
- ⑨ ビオトープ公園に関して現地勉強会の実施。豊田自然観察の森(H20. 11. 1)：参加者：諸輪区前川散策道整備推進委員会委員、愛知池友の会、GB、都市計画課
- ⑩ 諸輪区前川散策道整備推進委員会で実施に向けての検討(H21. 2. 16)
- ⑪ 公園用地取得に向けて、地主とは町有地との交換で了解を得たが、町の来年度の実施予算が見送られたことが決定。このためビオトープ構想事業は凍結することが決定する。(H21. 12. 24)

[考察]

このことについては、地元諸輪区などの賛成が得られたことは大きな成果であった。課題は、用地取得と維持管理である。なお、このビオトープ公園構想は、グリーンベ

ルト構想にある「愛知池周辺整備計画」とは異なるものである。

3.7 愛知池周辺整備計画～前川を蘇らせる～

平成13年度に策定したグリーンベルト構想における7つの基本方針のうち、「水と緑と生物にふれあえる拠点づくり」があり、その一つに「愛知池周辺整備計画」がある。

その内容は、

- ・愛知池からの取水や湧水の活用
- ・シンボルとなる噴水池づくり
- ・田んぼなどを活用したビオトープづくり
- ・休耕田などを活用したコスモス畑づくり
- ・愛知池一周ロードづくり

である。

このうち、「水源を確保して前川を蘇らせよう！」がある。この計画の最も重要なことは、水源の確保である。ここで考えている水源とは、愛知池集水域における降雨分の水量を愛知池から放流してもらうということである。そして愛知池の水面との落差を利用しての噴水公園、さらに、その周辺にビオトープ公園をつくり、その水量は前川へ放流して前川を昔の川に蘇らせると言う構想である。

しかし、愛知池からの放流に関しては、東郷町としては反対である旨都市計画課長から言われた。(H17.10.18) 従って、噴水公園計画はなくなった。

3.7.1 噴水公園の水源手当てに関する流れ

- ① 前川は、愛知池(東郷調整池)築造(S.36年)により源流域(集水域)が減り、川としての環境条件が悪化した。
- ② その要因は、前川源流の集水域であった百々池、百々上池、葦ヶ廻間池とそれに続く水田地帯が愛知池築造により消失し、前川の流れがなくなったことによるものである。
- ③ そこで、この流域分(2.32平方km)の降雨による流量(約4,000千 m^3 /年)分を愛知池からの放流によって前川の流れを復元させる。
- ④ 愛知池(堤高31m)からの放流は、サイフォンで導水し、自然圧を利用して噴水として利用したビオトープ公園を新設する。

3.7.2 愛知池集水域降雨分の水量に関する調査

① 愛知池は2級河川前川に築造されたもので、集水域における降雨による河川流水の水利使用は次の様に規定されている。

河川法(S. 39)第 23 条(流水の占用の許可)により許可されたものでなければならぬ。また、旧河川法(明治 29. 4. 8)第 18 条(敷地若しくは流水の占用の許可)に「河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政庁ノ許可ヲ受クヘシ」とある。

愛知池の上記関連の水利権について、愛知県河川課並びに水資源開発公団事業部に問い合わせた(岩村個人が)ところ現時点(H13. 9. 17)では、水利権に関する書類はないとのことであった。

② 雨水は、土地の所有者に関係なく「公」のものである。従って、愛知池集水域に降った雨水は「公」のものである。(愛知県河川課長談 H17. 10. 18)

③ 愛知池のために前川は、減水区間が生じて環境に影響を及ぼしている。

[考察]

この計画は、愛知池築造によって失われた前川流域分の降雨による水量を放流してもらい、現状の水量が減り、環境が悪化した前川を元の良い環境に復元することが大きな目標であった。

しかし、町当局の反対でこの構想は打ち切りとなった。今後、前川復元に向けての地元の要望などがあった場合、今までの経緯を再調査して実現に向けて進めることを期待する。

なお、前川の平常時の河川流量増加は、境川更には三河湾の水質改善にもつながるものである。

3.8 前川の自然環境保全(水質改善)について

前川の水質を改善して、昔の魚のすむ川に復元する。

3.8.1 前川の自然環境保全のための活動推進の提案

前川集水域の住民参加による前川の自然環境保全のための活動推進の提案があり、東郷町、諸輪区、GB、愛知池友の会が参加して勉強会が開催された(H20.3.6)。

議題は、

- ① それぞれの団体から「前川」に関わってきた経緯、問題意識の説明。
- ② 吉田重方先生からの東郷町の河川の水質等についての解説。
- ③ 話題提供と意見交換、その他。

3.8.2 諸輪小学校へ水生生物調査の協力依頼

諸輪小学校へ水生生物調査の協力依頼を都市計画課長が協議した結果、申し出の趣旨はよく理解できるが、学校としては諸般の事情から協力できないとの回答があった。

3.8.3 前川の水辺環境改善に向けての水質調査と流量測定

1) 水質調査

調査箇所：①前川万平橋②ダム浸透水③篠木川④県営住宅⑤小口川⑥観音橋⑦

境川福田橋：(H20.6.6 から前月一回実施・馬杉さん)

2) 流量測定

位標設置：①観音橋②小口川：(H20.7.11 実施するも、その後水位標の流失などで測定はしていない)

3.8.4 東郷町との協働調査

東郷町環境課では、前川の水質調査を従来は観音橋 1 箇所であったが、H20 年度からGB活動に協力して篠木川、小口川合流点の 2 箇所が追加され、年 3 回実施することになった。(第 1 回調査 H20.6.6)

3.8.5 「前川通信」

前川集水域の地域の皆さんに、前川の水質浄化と環境に関心をもって貰うため、諸

輪、御岳、白鳥にお住まいの方々へ「前川通信」(A-3 2つ折)を各戸に配布する活動を実施した(この件については馬杉さんが原稿～配布まで活動)。

水質調査、前川通信の刊行等の仕事は「愛知池及びその周辺の水質環境の保全再生」という事業名のもとに、愛・地球博開催地域社会貢献活動基金(通称、モリコロ基金)の助成を受けて「愛知池友の会」が行ったもので、活動対象地域が重なり、事業目的にも類似点があったので、当会の報告書に記載することにした。

1) 前川通信発行実績

- 1号 2009.11.1「愛知池、前川の自然と楽しく、賢くつき合しましょう」
- 2号 2010.1.1「今年は、流域の住人 5,500 人の気配りで前川の水をトコトン綺麗にしましょう」
- 3号 2010.3.1「地球温暖化ガス 25%削減は大事です。だったら、前川の水の汚れも 25%減らしましょう」
- 4号 2010.11.1「自然好き、生き物好きのあなたをチョコボラにお誘い致します」
- 5号 2011.1.1「前川からはじめて、下流の境川の浄化や、三河湾のアサリの増産のためにも、お宅の排水を下水道に接続してください。洗剤類の使用をへらしてください」

(配布部数 諸輪 1,060 部、白鳥 1,200 部、御岳 830 部 A4 裏表刷り 1 枚)

2) COD(化学的酸素要求量)調査結果

H12.8.6 から H22.10.8.まで毎月、共立理化学研究所のパックテストによる COD の調査を実施した。

H16.4 月から硝酸態窒素、アンモニア態窒素も測定している(調査継続中)。

COD の調査結果のから、採水場所間の差は大きい。

表 8.1 COD*の最大値、最小値、平均値

| 採水場所 | 最大値 | 最小値 | 平均値 |
|------------|-----|-----|-----|
| ダム浸透水合流点 | 6 | 2 | 2.4 |
| 万平橋下流 100m | 8 | 2 | 4.1 |
| 篠木川下流 | 8 | 2 | 5.3 |
| 小口川下流 | 6 | 4 | 5.7 |
| 集合住宅小口川出口 | 8 | 4 | 6.3 |
| 前川下流、観音橋下 | 6 | 4 | 4.6 |
| 境川、福田橋下 | 8 | 4 | 6.0 |

※COD: 化学的酸素要求量。水中の被酸化性物質を酸化するために必要とする酸素量を示したものの値が大きいほど水質が汚れていることを表す。酸素消費量とも呼ばれる。

3) 水質浄化による自然環境保全について

COP10による生物多様性の保全と、事業所からの排水、家庭からの洗剤類、農薬、肥料等の「化学物質」で環境を汚染しないことが、車の両輪のように進められるべきだと思われる。流域住民の「民度」が川の汚れに現れると云われている。

特定の微生物群を前川に注ぐ試みがされたこともあるが(H20.10.9~11.20)、効果は不明。

水質浄化に特効薬はなく、境川流域下水道への接続、個別浄化槽の合併浄化槽への交換、炊事、洗濯、油、食物残渣の処理等、各家庭での汚染源削減の努力が求められる。

4 東郷町グリーンベルトを考える会に参加して

池田 恵子さん(ふれあい空間グループ)

平成13年よりGBに参加して、早いもので10年の節目を迎える事となりました。

ふれあいグループの活動は、平成15年11月に境川中州に念願の犬のしつけ広場をオープンさせ、現在約600名の利用者の登録を数え、飼い主の適正飼育指導とマナー向上をめざす交流の場となり、平成17年には利用者の中から自発的に「犬のしつけ広場を愛する会」というサポートボランティア組織が立ち上がり、結果犬のしつけ広場がより円滑行われる活動になりました。

私個人としても官民協同の活動に一住民として参加したことは、新たな発見や慣れない事の連続でもありましたが、犬のしつけ広場が軌道に乗り安全に運営されている事は大きな喜びです。

犬のしつけ広場で遊ぶ飼い主と犬たちを見ていると、「犬のしつけ広場」から癒しを与えられている事に気づかされたり、草刈りなどの作業を通じて、グリーンベルトの考えをよく表す空間になっていると思います。

これからのふれあいグループはステップアップし、今まで運営・管理を任されていた、ボランティア組織「東郷家庭犬を考える会イースト・ウインド」より「犬のしつけ広場を愛する会」に運営・管理を移行させて、多数の町民ボランティアに引き継がれる事になりました。

これも歴代の役場関係者・グリーンベルトの皆さん・関わるすべての方々のお陰だと感謝しております。

引き続き関係各位皆様のご協力をお願いいたします。

岩村 勉さん(自然グループ)

「魚と共生できる川づくり」に関心を持ち、期待をもってGB活動に参加した。

境川、前川の魚のすむ川づくりには、河川の流量、水質、流れ、外来生物など河川環境の改善に向けた取り組みが必要である。

それらのことについて、河川管理者、愛知池管理者との意見交換会で大筋の了解を得たが、諸般の事情から実現が出来なかったことは非常に残念に思っている。

町との協働事業の特色を活かして、諸輪区及び町民の協力を得るように出来なかったことは大きな反省材料である。

生物多様性が叫ばれている今日、今後は第5次東郷町総合計画の中で、境川、前川が昔の魚のすむ川に復元できればよいと願っている。

片田 恵子さん(ふれあい空間グループ)

きょうまでの活動を通じ、「人の生き方や社会の在り方を環境も含めた視点から見つめること」、「自然との共生の大切さ、自然に対する謙虚さ」を学ぶ機会を得ました。いまや地球環境の改善を目指す人々の輪は、日本にも大きく広がろうとしています。

ストップ温暖化の取り組みをはじめ、自然との共生に向けた社会づくりなど、環境ボランティア活動の取り組みは、地域社会活性化の上で重要な役割を果たしています。

私は「ペットと共存できる町づくり」の一環として「犬専用運動場・犬のしつけ広場」の運営に関わってきました。全国で4軒に1軒が犬を飼っているというデータからも、もはやペットの問題を後回しにはできない状況にあります。東郷町においても犬猫の糞公害、放し飼い、人畜共通感染症の諸問題は私たちの生活環境に大きく関係しています。

広場の目的は犬の適正飼育の指導を軸に利用者へ最新情報を提供し、マナーの向上、健全なペット飼育の働きかけです。犬専用とはいえ、これは、れっきとした「住民(人)のための啓発施設」です。今後も住みよい町づくりに向け「犬のしつけ広場」の効果を期待しています。

鬼頭 弘さん(自然グループ)

東郷町の自然環境をよりよくしたいとの思いを持って、グリーンベルト構想に参加した。愛知池からの漏れ水を使って田んぼを中心にしたトンボやカエルの住むビオトープについて様々な検討を加えてきたが、残念ながら実現されることはなかった。この間に東郷町はグリーンベルトでのビオトープの実現には向かうことなく、いこまい館の附属施設としてビオトープを建設したのは残念であった。

今後は、昨年から愛知県が実施している水田魚道の成果を参考にして、東郷町の自然に関する施策がより多様性に富む環境を創出する方向に向かうことを望む。

また、東郷町の自然の状況を皆で共通理解したいと考え立ち上げた観察会は足かけ9年になり、のべ1000名を超える参加者があった。身近な自然に興味関心を持っている人が相当数いて、機会があればもっとよく知りたいと思っている人がいることが分かった。今後も観察会をできるだけ長く続けていきたいと考えている。

小林 賢朗さん(自然グループ)

私は平成13年に、町民参加の構想づくりを目指しGBに参加した。公募で集まった17名の中の1人であった。第4次東郷町総合計画において、町が何を求めているか理解の無いままGB活動に入った。不安と期待の交錯するなかで、自然との共生を模索してきた。

新しい環境づくりが夢であったが、課題も多くあり3つのサブグループがそれぞれに築きあげたのが現在のGBである。

私は特に、GBと地域住民や行政管理者と協働のなかで色々な出会いや発見もあり活動の成果が実ったと自負している。一方、未完成な部分も多く残しているが、これからは与えられた環境を利用して焦らず活動の継続に協力をしていきたい。10年目の節目を迎え、少人数ではあっても改変し再スタートが出来れば、本来の持続可能な発展につながると思われる。

島川 義秋さん(ネットワークグループ)

私は東郷町に生まれ育った人として地域に貢献できることもやってみたいとの思いからこの活動に参加しました。

活動を通して「何が貢献できたのか、何を残せたのか」などについて考えてみました。まず、私のネットワークグループのメンバーは当初3名でしたが、2名の方が抜けた為、一人になってしまいました。その頃からGB代表になり、もっぱら例会などのまとめ役として貢献してきました。ネットワークグループの活動目標として「境川～前川～愛知池へと散策道をつなげ、各活動拠点並びに隣の市町へも活動を広げること」を考えていましたが、町の財政面から棚上げとなってしまいました。唯一活動を継続しているのはH20年より始めた自転車教室です。境川の児童遊園で小学生を主に安全、運転技能を教えたり、境川の遊歩道でミニサイクリングをしています。今後は

地域貢献する為にはどうしたら良いかを考えながらできることから一つずつ積み上げていきたいと思います。

半田 丈直さん(自然グループ)

この地で生物多様性条約第 10 回締約国会議「C O P 10」が開催された今年、考えてみれば、私たちは残念ながらこの 10 年で、さらに多くのものを失ったような気がします。

私が G B の仲間入りをした頃すでに、あちこちで、自然環境の変化が問題視されていました。豊かな自然の残るこの地域を何とか後世に残しておきたいと思ってはいましたが、年々緑は少なくなり、川は濁り、見える星も、まばらになってきました。それでもなお、今いるもの、今あるものを大切に、一人ひとりの意識が変われば、まだ希望は持ち続けていられると信じて、今できることを、していきたいと考えています。

子ども達の遊びは、いつの間にか、内に内にと変わり、自然はおろか、人とのかわりまで、少なくなってきたようです。何とか外へ外へと向けさせてやりたいものです。

人は本来、自然との付き合いなくして、生きていられないのでは・・・ないでしょうか。

日比 理智さん(自然グループ)

私は、平成 16 年度より G B に参加しています。G B と私の出会いは、G B が行っている自然観察会に親子で参加したことが始まりでした。自然観察会に何度か参加し、東郷町の自然環境や生物に興味を持ち、もっと深く知りたいとの思いから G B のメンバーに参加させていただきました。

愛知池から前川、境川いたるグリーンベルトは沿川に水田などもあり、鳥や昆虫、植物、魚など多くの生物が棲んでいます。また、それ以外にも、ため池や水田・林などが残されており、生き物が棲む環境が残されています。

これらの場所に棲む生き物たちは季節ごと、場所ごとに変化し、とても興味深く見ることができます。この町が、多くの生き物たちとの出会いの場所であり続けること

を深く願っています。

今後も、GBが行っている自然観察会を通じて、生き物たちの暮らしをご紹介しながら、この町の自然環境を守りたいと考える仲間を増やしていくことが、この町の自然を守ることの手助けになるのではないかと思い、活動を続けていきたいと考えています。

馬杉 晶爾さん(自然グループ)

三児の魂百まで

古希を過ぎて3年、わずかでもお金を貰って、責任を持たされる仕事から解放された。その分、修学前の子どものような自由時間が戻ってきた。

子ども時代の思い出は、公園の池でのエビ釣り、檻の中の猿を餌でおびき寄せて木の枝で叩く、メジロをパチンコで撃ち落とす。中学時代はトリモチ、カスミ網、空気銃で小鳥を追い回す。琵琶湖の様々な魚を池に入れ、メジロ、ホオジロ、ウグイス、ネズミ、ウサギから蛇まで飼っていた。今なら、不法・悪行だが子どもの頃の「動物熱中時代」がなつかしい。

ここ数年、「愛知池友の会」「GB」に入れて頂いて、前川の水質調査などと固いことをいってはいるが、ただ、生き物を見ている方が楽しい。カワセミに出会えるとその日一日、何か得したような気がするし、菜園用にと借りた休耕田でナンバンギセルの群落を見つけた時も嬉しかった。先日、前川の下流で見た大ナマズをどうやって捕るか、考えているだけで若返れそうな気もするが、あの「熱中時代」は戻らない。身体の方は、後、数年も保つまい。夢は魚を追い回す……か。

5 東郷町グリーンベルトを考える会名簿

東郷町グリーンベルトを考える会名簿

| 平成 年度 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---------------------|----|----|----|----|----|----|----|--------|----|----|
| 正会員 (運営委員) | | | | | | | | | | |
| ◎ 自然グループ | | | | | | | | | | |
| 小林 賢郎 | ◆ | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 鬼頭 弘 | ◆ | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 岩村 勉 | ◆ | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 半田 丈直 | | | ◆ | — | — | — | — | — | — | — |
| 日比 理智 | | | | ◆ | — | — | — | — | — | — |
| 東 正光 | | | | | | ◆ | ◆ | | | |
| 馬杉 昌爾 | | | | | | | | | ◆ | — |
| ◎ ネットワークグループ | | | | | | | | | | |
| 加藤 基延 | ◆ | — | — | ◆ | — | — | — | サポ-ト会員 | — | — |
| 島川 義秋 | ◆ | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 柴山 博史 | ◆ | — | — | ◆ | — | — | — | サポ-ト会員 | — | — |
| ◎ ふれあい空間グループ | | | | | | | | | | |
| 片田 恵子 | ◆ | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 池田 恵子 | ◆ | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 鈴木 真澄 | ◆ | — | — | — | ◆ | | | | | |
| ○ サポート会員 | | | | | | | | | | |
| 石川 弘之 | ◆ | — | — | — | ◆ | | | | | |
| 臼田 慶子 | ◆ | — | — | ◆ | | | | | | |
| 佐野 真奈美 | | ◆ | — | — | — | ◆ | | | | |
| 近藤 修 | | | ◆ | — | — | — | — | — | — | — |
| 近藤 伸 | | | ◆ | — | — | — | — | — | ◆ | |
| 加藤 孝成 | | | ◆ | — | — | — | — | — | — | — |
| 近藤 伸男 | | | ◆ | — | — | — | — | — | — | — |
| 山上 伸夫 | | | | | | | | | ◆ | — |
| 東郷家庭犬を考える会 (19名) | | | ◆ | — | — | — | — | — | — | — |

6 おわりに

平成 13 年度にグリーンベルト構想を検討するため、町内の有志が集まり「GB」が結成されました。当初、「グリーンベルト構想」を町との協働作業により実現することを目的にスタートしたGBではありますが、町の財源不足などによりハード整備のほとんどを実現することなく 10 年を迎えることになったのは、非常に残念ではあります。

ただし、この冊子に示した様に、のべ約 20,000 名にもものぼる利用者があった犬のしつけ広場、のべ 1021 名にもものぼる参加者があった自然観察会、近年毎年行っている子供自転車教室、文化産業祭りや愛知万博へのパネル出展などの活動を実施し、多くの参加者や発表の場を得られたことは一定の成果だと自負しています。

それら 10 年間の活動を「10 年間のあゆみ」として冊子に取りまとめることにより、今までの活動を再整理することができました。

今後は、私たちができる良い活動は継続し、新たな「GB」として、わが町東郷町がすこしでも住みやすい町になることを願って、活動していきたいと思えます。

東郷町グリーンベルトを考える会 副代表 日比 理智

東郷町グリーンベルトを考える会 10年のあゆみ

編集・発行：東郷町グリーンベルトを考える会

発行日：2011年3月

お問い合わせ先：東郷町役場 都市計画課 公園緑地係

電話：0561-38-3111（内線：2234、2235） ファックス：0561-38-0001

E-mail tgo-tokai@town.aichi-togo.lg.jp

<http://www.town.aichi-togo.lg.jp/tokei/koen/greenbelt/greenbelt.html>

